今月の特集②

【酒造好適米の全体需給の推計】

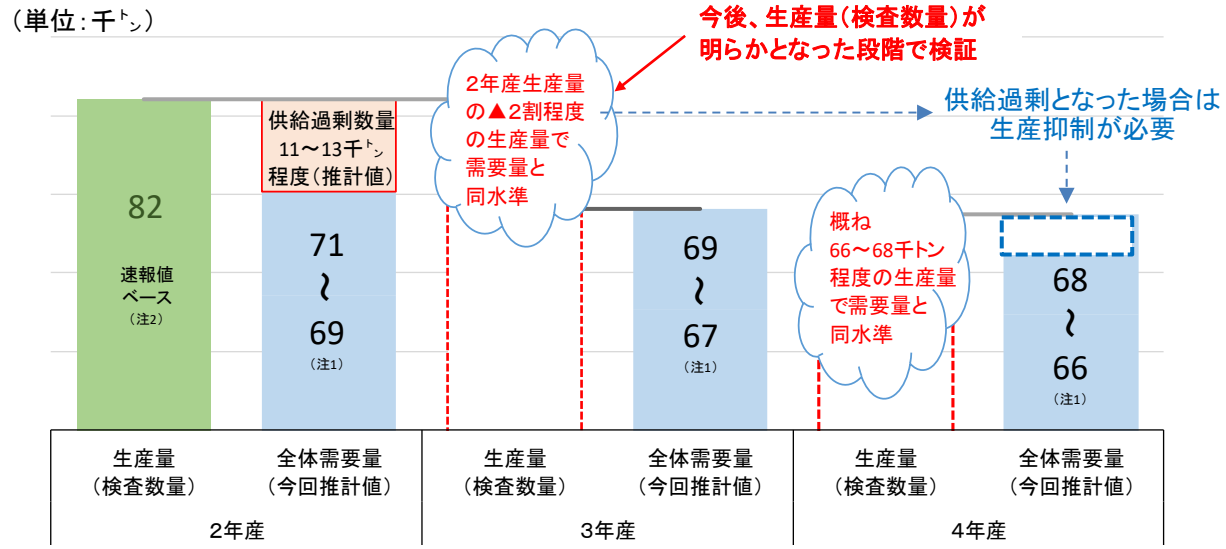
農林水産省が本年７月に行った「酒造好適米等の需要量調査」の結果をまとめました。概要は次ページ以下でご紹介しています。より詳細な調査結果の内容は、下記URLよりご参照ください。

また、令和３年９月28日に「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を開催したところであり、その概要については、同URLに追って掲載します。

https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

- 令和２年産については、全体需要量（推計値）と生産量（検査数量）を比較すると、11～13千㌧程度供給過剰となっていると推計されます。
- 令和３年産については、令和２年産の全体需要量からさらに２千㌧程度減少しています。
- 令和４年産については、全体需要量と同水準の生産量とするためには、66～68千㌧程度の生産量に生産抑制する必要があります。また、令和３年産において供給過剰となった場合には、さらに生産抑制が必要と考えられます。
- なお、令和３年産の需給については、酒造好適米の検査数量（生産量）が概ね明らかとなる来年１月に検証し、２月号のマンスリーレポートでお知らせします。

酒造好適米（醸造用玄米）の全体需給の状況



注1：各年産の全体需要量（今回推計値）は、今回の需要量調査の数量ベース回収率が、令和元年産酒造好適米の全体需要量（82～84千㌧）と今回調査の令和元年産の需要量（約67千㌧）から約81～82%と推計されるため、各年産の今回調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。

注2：生産量は、農産物検査数量（醸造用玄米）の値。ただし、令和2年産は、令和3年3月31日現在の速報値。

酒造好適米の需要に応じた生産に向けて

- 今後とも日本酒の国内外での円滑な出荷・販売のためには、原料となる酒造好適米についても需給均衡を図り、産地と実需者間で安定取引を図っていくことが重要です。
- 令和４年産の酒造好適米の作付けにあたっては、今後のコロナ禍の影響や産地品種銘柄ごとの需要動向を踏まえ、需要に応じた生産・販売を行うほか、日本酒輸出の拡大といった新たな需要動向を踏まえ生産に取り組むことも重要です。このため、今後もさらなる生産者と実需者の相互協力、連携が求められます。

令和３年度酒造好適米等の需要量調査結果の概要

・　昨年に引き続き、酒造好適米の需要量を把握するため、日本酒の酒造メーカーを対象として本年７月に需要量調査を実施。

調査の概要

	令和2年度	令和3年度
調査期間	令和2年7月	令和3年7月
調査対象メーカー数	1,421社	1,396社
回答酒造メーカー数	730社	717社
回答率（数量ベース）	79～80%	81～82%

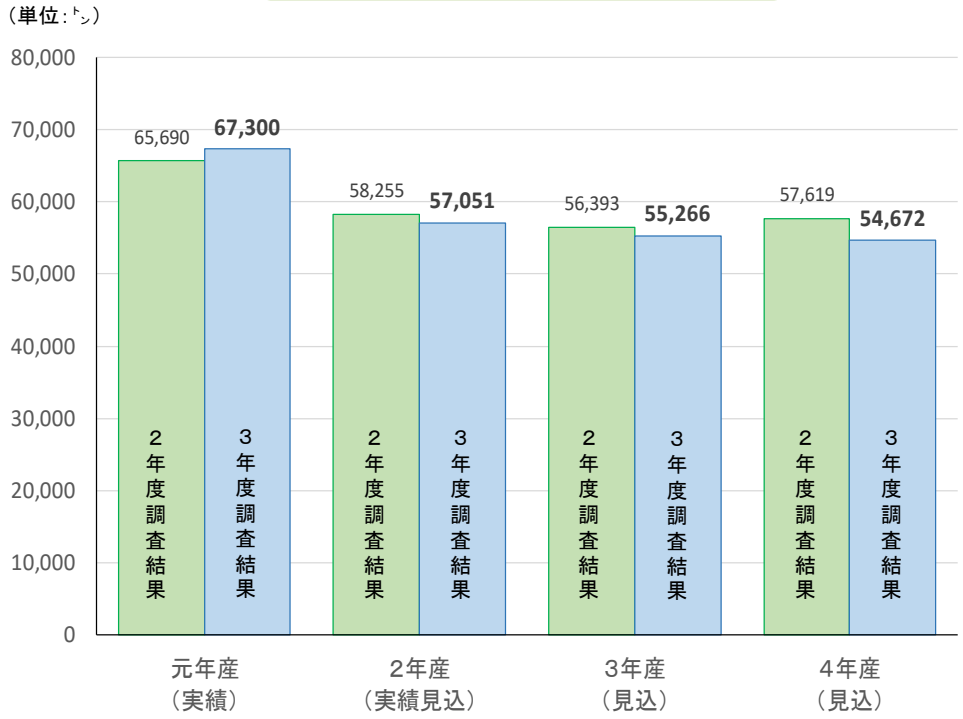
酒造好適米の需要量調査結果

・　今年度の酒造好適米等の需要量調査で回答のあった酒造メーカーの令和４年産酒造好適米の需要見込みは、合計で55千㌧と令和３年産に比べてやや減少するという結果になりました。

・　昨年度の需要量調査においては、令和４年産米の需要量は、令和３年産に比べて２％の増加を見込んでいましたが、長引く新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、国内出荷量の改善が見込めなかったのではないかと考えられます。

・　令和４年産の生産にあっては、コロナ禍の影響や輸出拡大等を踏まえ、産地においては生産者と実需者が連携し、４年産の作付計画に反映する必要があります。

酒造好適米の需要量調査結果

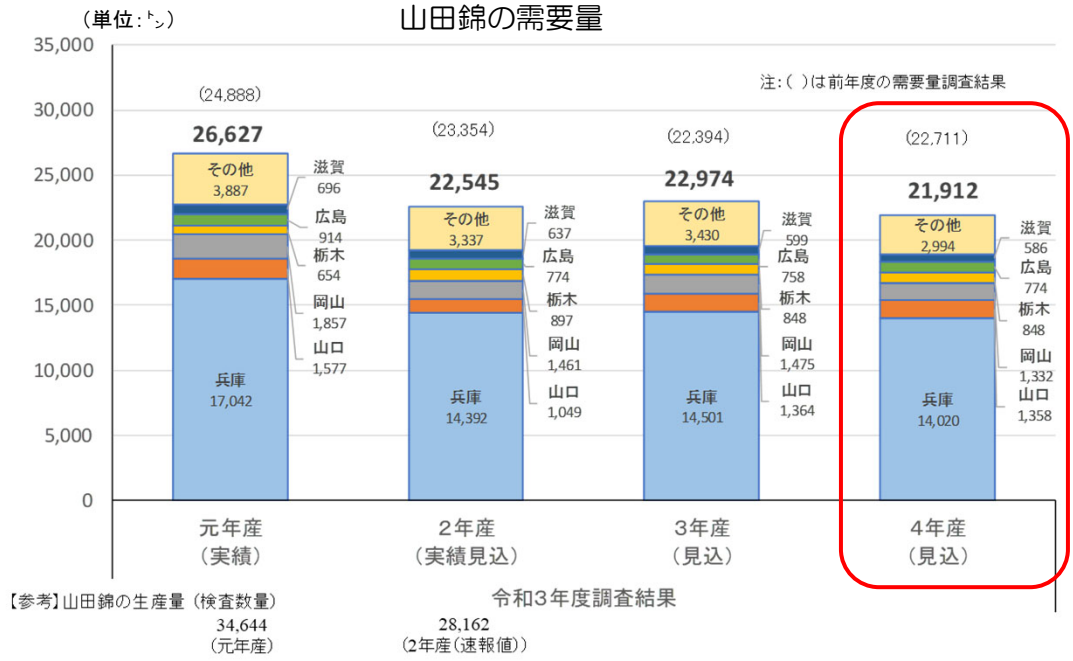


主な酒造好適米の需要量（酒造メーカーからの回答分）

山田錦

○　令和４年産の山田錦の需要量は、令和３年産に比べて▲５％減少しています。

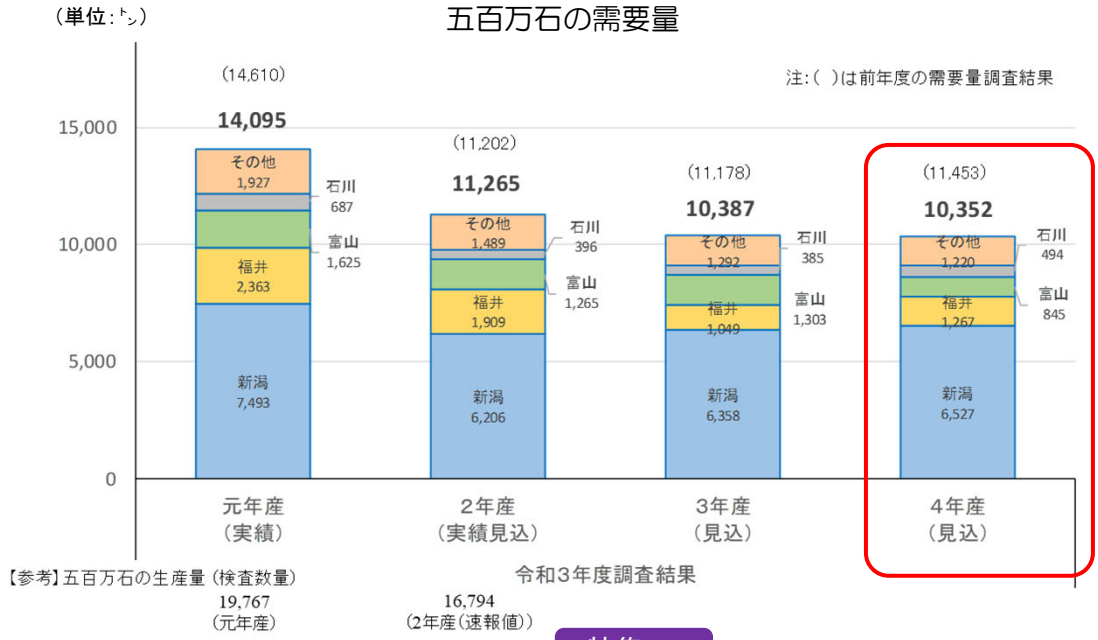
○　昨年度の需要量調査においては、令和４年産の山田錦の需要量は、令和３年産に比べて＋１％でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、昨年の調査時から改善が見込めなかったものと考えられます。



五百万石

○　令和４年産の五百万石の需要量は、令和３年産に比べて±０％と同程度となっています。

○　昨年度の需要量調査においては、令和４年産の五百万石の需要量は、令和３年産に比べて＋２％でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、昨年の調査時から改善が見込めなかったものと考えられます。



日本酒の国内出荷状況

○　日本酒の国内出荷量については、近年、減少傾向で推移しているところですが、平成30年以降は減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた特定名称酒についても減少に転じたところです。

○　また、令和２年以降については、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、業務用の日本酒を中心に国内出荷量が減少しており、特に酒造好適米を多く使用する特定名称酒が大幅に減少しています。

日本酒の国内出荷量の推移

（千kl）

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年（1～7月）	3年 対前年同期比
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	580	566	555	540	533	495	467	419	206	97%
特定名称酒	291	221	174	164	167	173	178	179	171	165	142	67	97%
吟醸酒	34	30	20	21	24	25	24	24	23	22	20	9	102%
純米吟醸酒	25	26	24	29	32	37	42	45	45	45	40	21	104%
純米酒	62	54	57	58	59	62	65	67	64	62	55	26	95%
本醸造酒	169	111	73	56	52	49	46	43	38	35	27	11	84%
一般酒	842	650	485	416	399	382	362	353	324	302	276	139	97%

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。
注１：清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒等８種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。一般酒は日本酒国内出荷量から特定名称酒の数量を差し引いて算出。
２：国内出荷量には輸出量は含まれていない。

日本酒の輸出状況

○　日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延等の影響により、令和２年の輸出数量は減少（対前年比▲13%）しました。

○　令和３年１月～７月については、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延等の影響はあるものの、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向（対前年同期比＋69%、対一昨年同期比＋14%）にあります。

日本酒の輸出量の推移

（千kl）

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年（1～7月）	3年 対前年同期比
日本酒輸出量	8	8	12	16	16	18	20	23	26	25	22	17.6	169%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	5	5	6	6	6	5	4.6	167%
中華人民共和国	0	0	0	1	1	2	2	3	4	5	5	4.1	191%
香港	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	1.8	129%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.5	143%
大韓民国	0	0	2	4	3	3	4	5	5	3	2	1.4	239%
その他	2	2	3	4	4	5	5	6	6	6	5	4.2	168%

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

以上のほか、詳細な情報は、以下ＵＲＬにより「日本酒をめぐる状況及び酒造好適米の需要量調査結果」を参照ください。
ＵＲＬ：https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html